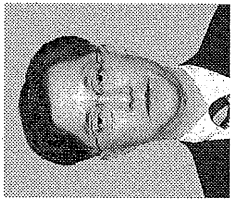


# なぜ、今 銀行業が厳しいのか

出しが伸びているのかを考  
えよう。確かに、景気は、  
各種指標からみる限りは、  
力強きに乏けているもの  
の、緩やかな改善を続け  
ていることは事実である。  
しかし、こうした景気要因



こよま けんじ 金融。埼玉  
大学大学院経済科学研究科博士後期  
課程修了。経済学博士。日本銀行考  
査長、山形事務所長、調査統計局調  
査主幹などを経て現職。1958年  
生まれ。

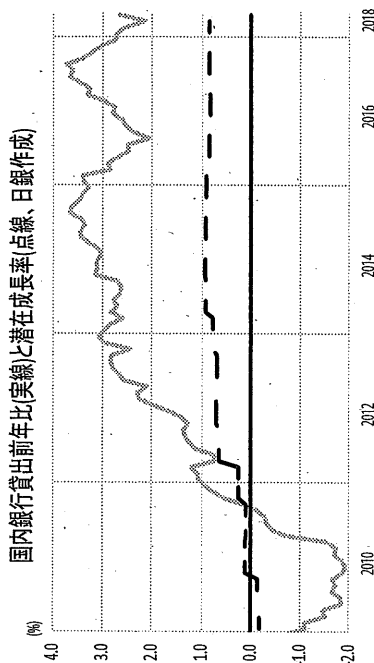
植林 茂  
現代表マシメント学部准教授

銀行貸し出しの前年比は  
このところ2〜4%増と  
わが国経済の美力を示すと  
言われるGDPの潜在成長  
力である1%弱をかなり上  
回る伸びが続いている(図  
表参照)。しかしながら一  
方で、銀行収益は厳しさが  
増していると報じられてい  
る。銀行の本業である貸し  
出しが堅調であるにも関わ  
らず、銀行収益が厳しいと  
いうのは納得できないとい  
う方も多くであろう。そこ  
でこうした状況について  
銀行貸し出しのサイドから  
説明してみたい。  
最初に、なぜ、銀行貸し

## 銀行貸し出しの裏側

加といった面よりも、預金  
の大幅な増加により銀行の  
預貸バランスが変化し、こ  
れが貸し出しの増加にな  
がっている部分の方がはる  
かに大きいことが判明して  
いる。すなわち、個人年金や  
企業の内部留保の増加を背  
景に銀行預金が好調に増加  
する中、銀行は、これら資金  
を貸し出して運用できなけ  
れば、残った部分は金利ほ  
ぼゼロの国債やインターバ  
ンク市場で運用せざるを得  
ない状況に陥っている。こ  
うした事情が、貸し出しに  
注力するインセンティブと  
なっているのである。  
しかしながら、資金量は

だけでは、潜在成長力を大  
きく上回る貸し出しの伸び  
は説明できない。  
そこでさまざまな角度か  
ら計量的に分析すると、景  
気改善による資金需要の増



人口減や企業・個人  
の日本経済の先行き  
に対する慎重な見方  
を背景に伸び悩んで  
いるため、銀行の貸  
出積極化は、結果的  
に貸出金利の低下を  
招き、さらには日銀  
のマイナス金利政策  
とも相まって、銀行  
収益の悪化につな  
がることになる。実際、  
貸出金利を被説明変  
数として計量的に分  
析しても、預金の増  
加は金利に対してマ  
イナス方向に強く働

いている一方、景気要因は金  
利に対してプラスに働いて  
いないことが裏証される。

さらに、銀行店舗数をみ  
ると、バブル崩壊以降減少  
が進んでいたが、ここ10年  
ほどについては頭打ちで、  
東京、愛知といった大都市  
圏や地域の核となる中核都  
市圏の一部では、むしろ小  
幅ながら増加している。こ  
うした地域では、銀行間の  
店舗競争の度合いを示す店  
舗ベースのハーフィンター  
ル・ハーシマン指数(H  
HI)も競争度の強まりを  
示している。これらは、全  
体に占めるウエートの高い  
大都市圏や中核都市圏にお  
いては、銀行間の店舗競争  
の激化によって、金利が低  
下する一方、貸し出しが増  
加していること(「店舗ベ  
ースHIHIでの市場構成  
果仮説」)を意味する。

こうした状況を総合する  
と、今後しばらくは、貸し  
出しは堅調に推移するもの  
の、金利は低迷し、銀行収  
益は改善しない状況が続く  
可能性が高いと考えるのが  
妥当であろう。